

日長 二、八九八相
倉敷 一五、四四五、五相
外人 一二、七九五、五相
合計 一六五、六九二、五相
と云ふ状態になつて居る。
又昨昭和五年度に於ける縣下の重なる織物原糸の消費量を示せば次表の如し。

生糸 四五〇、六一五貫
絹紡糸 八〇、四六八貫
柞蠶絲 一八三、八〇四貫
人絹絲 二、五九四、五一三貫

右表の如く昨年度に於ける人絹糸の消費量は生糸の約六倍にて如何に人絹織物が旺盛なるかを推知することを得。

以上の如く我國人絹生産高の約半数を消費すると云ふ素時らしき發展振りにて之れが取引も亦實に目覚ましく福井市中の活氣付居居ることは一寸市中き歩るかんか人絹の荷車が右往左往その頻繁さに於て肯定することを得他地方が不況のどん底に呻吟し居る今日福井が割合にその深刻さを感じざるの所以は此の人絹織物の盛んなる爲なりと云ふ。

之等頻繁なる取引の機關としては福井レヨン商組合、福井レヨン同和會、之れに福井特有のオツパ取引等あり之のオツパ取引に就ては種々なる論あり何れ詳述する機會もあらん尙本年三四月頃より問題となりる人絹取引市場も最近大分具体化したるかに聞きを斯の如く福井縣下に於ける人絹織物は生糸及び絹紡糸の域を侵略し輸出羽二重工業組合設立等を尻目に長足の進歩を以て發達し尙今後奈邊迄發展するか全く逆踏し難き状態にある之等の事情に照らし(福井縣下のみを以て論ずるは

早計かも知れぬ)今後人造絹糸は人智の發達と共に愈々改良され生糸に益々近き性質のもの製出され我が蠶絲業界を脅かすものと思考せねばならぬ即ち去る七月一日より宮崎縣延岡町の日本ベンベルグ會社より初賣され目下盛に市場に進出しをる高級人絹糸ベンベルグ絲の如きはデリメン、ジョーゼットに使用され居る

滿洲事變の跡を語る

在滿洲 湯川秀夫

一、奉天の戦蹟を觀る
○張學良麾下の精銳一萬二千の兵が據つた北大營、それに一億圓以上の巨資を投じた近代兵工廠、飛行機百餘台を有する東北空軍、東北無線電信所及び東大營等は九月十八日より翌日の拂曉にかけ僅三ヶ中隊の日本軍に占領されたのであるが十月十八日奉天の軍部の案内で見物するの機會を得た。

○秋晴れの暖い日である。バスは奉天城外を縫ふて目的地に進む。行人も商賣も殆ど平常通りで平靜である。支那巡査が型の如く交通整理に當つてゐる。舊軍憲や官商には勢權崩壞の深酷な藻掻もあらうが失ふ處なき庶民には苦惱はない全く無關心の態度である。

走る事四十分許りで北大營に到着した。
練兵場は一キロ四方もあつて廣大なもので真中に今は主なき張司令の閣兵台が寂しく立つてゐる。
兵舎の外側は土塀に圍れてゐるが處々に彈痕や孔があいて當時を物語つてゐる。

が殆んど生糸の製品に遜色なきとの評なりか故に我が生糸が之等の人絹糸を敵として戦ふにはどうしても蠶絲業の合理的經營に依り生産費を低下し往年の如き高値出現等決して夢見ず眞剣に安價に提供し得る様努力するより外なく我が蠶絲業は前途益々多難なりと思ふ。(九、一三)

土塀の外には一面に百日草が霜にうら枯れて楊柳のみ青々と兵舎を蔽ふてゐる。
燒落ちた兵舎の傍の楊柳丈け赤く枯れて時々割れたトタン屋根が秋風に揺れてゐるのも又物哀れである。
建物の中には迫撃砲の彈や未發の小銃彈などが轉つてゐる。兵舎の部屋の中にはその當時の儘で取乱された寝具や和綴の漢書などが雜然として散乱して居る。

事變當時斯付けた兵は彈も少く人数も僅で苦心したそうであるが夜中支那兵は部屋の電燈を消さなかつたので覗撃されて損害が相當多く日本兵の方は闇夜ではあり敵の機關銃の彈も皆頭上を越して損害が案外少かつたとの事である。

當時日本軍で收容して敵の屍丈で四百餘りあつた由、あちこちに埋めてある軍馬や兵卒の屍を野犬でも掘出したであらう。もう白骨に化つて轉つてゐる。之を見たと一ヶ月以前の事變とも思はぬ。何だかズット昔の出來事の様氣がする。
兵工廠の設備は素晴らしいもので迫撃砲や投下爆彈の如きはマダ日本軍も有たない新銳なものであると將校が語つてゐた。

もし彼等が相當の落付きを以つて僅に數ヤロしか離れて居らぬ滿鐵附屬地に大砲を打込んだり飛行機で爆撃したら瞬時に全滅し得たであらうとゾツとした。

二、東北政權の没落

○父作霖以來張家の世政は非道かつた。絶る間なき征戰に誅求を事とし又善良なる人民を勝手に拉致して戦線に送りなどした。それから一方に絶大なる權力を擁し他方に官銀號(中央銀行)を操縦して無價値の不換紙幣を濫發して農民より毎年數千萬圓の買占をする等体のよい掠奪である。從來官銀號の發行紙幣の總額十五億圓に上り而も兌換準備の現銀は四百萬圓に足らないのであるから一兩年以來奉天省の紙幣は日本金の百分一以下に下落して仕舞つてゐる。この當然で東北政權の一つである。

かく庶民怨嗟の的なり張家の政權はおそかれ早かれ没落の運命にあつたのであるが適々九月十八日の事件は是を早める動機となつたのである。

○實にや十八日の砲聲や突撃の叫は舊東北政權没落の葬送曲であつた。
御大學長氏は完全にロツクアウトされて仕舞ふた。國民政府副司令としてモダン振り華なりしも東の間であつた。彼は北京郊外にあつて蒲柳の身を擁し見果てぬ昔の夢の跡を逐ふてゐる事であらう。

三、東北政治の改造運動
○滿蒙即ち東北四省は舊政權亡びて今や新なる政權樹立に忙しい。三千万の民衆を擁して要人達は更生の惱

を續けてゐる。
東北にはもとゞ、國民政府の威令は實質上及んで居らぬのでどうしても樹直しは東北の人々の手に殘されてゐるのである。

○奉天の袁金鏡の奉天治安維持會をキツカケに吉林省の參謀長瀧谷は吉林省獨立を宣言し續いて黑龍江省の張海鵬、熱河の湯玉麟は夫々省獨立を宣言してゐる。又別に清朝の末裔宣統廢帝や恭親王などの擁立運動も起つてゐる。

○但し遼寧省(元の奉天省)又はどうした獨立の形式をとれぬ事情がある由にてその代り省内の各縣がそれ獨立して自治制を布きつゝある。
○東北の中樞奉天城内の自治行政は土肥原大佐が市長として施行してゐたが十月二十日を以つて支那側に引續いた。

しかし顧問として日本人が残る事になつてゐる。官銀號等の金融機關も滿鐵の手によつて改造されて先般開業された。
支那側の電燈なども着々滿鐵側に供給しつゝある。
最近滿鐵の大幹部、中幹部處は奉天に總出の姿で新しき東北政治の立直しに夫々アドヴアイズしてゐる。何れ懸案の小問題は此際片づく事であらう。

○上田市出身の滿鐵衛生課長金井醫學博士は氣鋭の士であるが滿鐵幹部の態度手緩しとばかり會社に缺勤届を出し自分の率ゆる政治團體滿洲青年聯盟の幹部を引具して奉天に乗り込み支那側の○○鐵道を動かしてゐる。之なども改造劇の一挿話であらう。

四、此のあとに来るもの

以上の如くマダ改造の途上にあるから断言は出来ぬが政体は結構獨立した各省の聯省自治共和國となり従來の経緯より軍備は日本之に當り從來空しく費された數千萬圓の軍費は財政、産業等に振向け日本人のエキスパート指導の下に善政主義により行はれ現在の東北の支那側の鐵道は滿鐵と共同經營と言ふ事になり、從來邦人農業發展上の瘤であつた商租（土地租借）問題も實質的に解決され日支共存共榮の農業的樂土が出来上りはせぬかと豫想される。

（十月二十三日記）

將來滿蒙は國防上、經濟上産業上國民の關心を要するヴアイタルな處と思ふから今後時々本誌を借りて農牧方面その他緊要問題を報道し度いと考へてゐます。

植物とところぐ

（その三）

暗くなつてから老神温泉に到着して谷底の湯に一浴した今日の一日は大分難コースであつたが植物は大分あつた。赤城で花の咲いて居つたのは。

- ノリウツギ、ムラサキ、マ、コナ、スズサイモ、ノギラン、ヒメノガリヤス、シモツケ、ウツボグサ、トリアシシヤウマ、チダケサシ、クサアジサイ、シロバナコマツ、ジ、ナツツバキ、ユワケウメ、タカネオミナエシ、タカサゴサウ、ミヤマオグマキ、コメス、キ、キンボウゲ、バイケイサウ、ウメバチサウ、コマメグサ、ヤグルマサウ、ミヤマカラマツサウ、ヒメヘビイチゴ、ヤブカンゾウ、クルマユリ、クカイサウ、テンナンシ

第三回蠶絲科學講演會開催

（再録）

前號廣告の如く左記により針塚先生還曆祝賀會並に第三回蠶絲科學講演會を開催致します。已に御承知の如く此の講演會は昨年度代議員會の決議に基き針塚先生の還曆を記念するため開催せらるゝものでありまして祝賀表現の形式としては時節柄頗る質實なる方法ではあります。次に祝賀式は二十二日（代議員會當日）に取り行ひ針塚先生並に御家族を御招待し母校諸先生の御参列を仰ぎ胸像を贈呈し加て、簡單なる午餐會を催す計であります。就ては此の不況時に際會し萬事御多用の折柄とは存じますが如上の趣旨に御賛同被下萬障御繰り合せ御來會を切望致します。追而準備の都合もありませんから祝賀式参列の方は其旨明記して御通知煩し度尙御希望により御宿泊所の準備をも致します。

一、代議員會並に針塚先生還曆祝賀式

十一月二十二日（日曜日） 午前九時より祝賀式 午後一時より代議員會

一、講演會（會場母校講堂）

第一日目

十一月二十三日（斯嘗祭） 午前（自午前九時正至正午）

蠶の白癩病菌の生態並に防疫に關する研究（二時間） 長野縣蠶業試験場技師 勝 又 藤 夫 氏
蠶絲業の改良と蠶絲科學（二時間） 農林省蠶業試験場技師 平 塚 英 吉 氏
同 日 農林省蠶業試験場農學博士 野 崎 清 氏

蠶絲業の不況と其の對策（二時間） 農林省蠶業試験場農學博士 明 石 弘 氏
養蠶業經營の本質と其の指導原理（一時間） 蠶絲業同業組合中央會參事 野 崎 清 氏

第二日目

十一月二十四日（火曜日） 午前（自午前九時正至正午）

線張力に關する研究（一時間） 上田蠶絲専門學校教授 林 貞 三 氏
塩酸燻化の原理（二時間） 京都高等蠶絲學校教授 三 浦 英 太 郎 氏

同 日 午後（自午後一時至五時）
生 絲 相 場 論（二時間） 東京高等蠶絲學校教授 福 本 福 三 氏
ゼラチンとゼリンの化學（二時間） 上田蠶絲専門學校教授 金 子 英 雄 氏

案内狀は斯業に關係ある諸官廳、學校、工場、會社等へ送附致して置きましたが會員以外の御知己等にして希望者がありましたら極力御勸誘願ひます。聽講者資格に制限を設けず會費を徴收せざることと致しましたから御含みの上多數出席方御配慮を願ひます。尙プログラムが出来て居りますから御入用の節は御申越し下さい。

ヤウ、ハタザオ、オホヤマフスマ、ヒレハリアザミ、チシマフウロウ、イワガラミ、今少しで咲くもの。

ウスエキサウ、コトリトマラズ（雌）オタカラコウ、メタカラコウ、コバケイサウ、シギンガラマツサウ、果實を見たもの。

イヌシデ、ヤシヤブツ、ムシカリ、エンレイサウ、ヒヤウタジボク、シロバナヘビイチゴ、花も果實もないもの。

シラキ、サンザシ、コオニユリ、シロヤシオ、フクオウサウ、ノゴソボウ、アオヤギサウ、クルマユリ、ハンゴンサウ、カメバヒキオコシ、ヒレタマブキ、キオン、バイカウツギ、クマンデ、アサヒラン、ヌズビトノアシ、ユキワリシホガマ、イワギボウシ、ヤマラツキヨウ、タツノヒゲ、

七月七日老神を出發して追貝に出た鎌田に出た鎌田からいよいよ尾瀬沼行きの小徑に進入つた。越本で饗食、戸倉からはもう民家が無い。戸倉から二里半山徑を巡つて、途中双龍の瀧を賞しやつとの事でネバ澤の温泉に到着した。主人公一人きりしか居らぬ温泉宿である。

七月八月、愈々今日こそ神祕境尾瀬沼へと心も足も軽く、三平峠を越へて尾瀬沼へ向つた。昨日から今日の三平峠迄の植物を整理して尾瀬の夫れとはつきり區別せねばならぬ。

三平峠迄の植物は。ツマドリサウ、ムシヤリンドウ、

りも實收の方がいつも多くなつて
ますがね。どういふわけですか
ね。

野崎 清——豫想では内輪に見るた
めぢやないかね。

森田三郎氏——それがいつも十に出
て一に出ないといふことはどうい
ふわけでしょう。

武本治氏——實際の掃立枚数より
も少ない掃立枚数を報告してゐる
ためではないでせうか。たとへば
事實七枚掃立たものを五枚掃立て
だといふやうに報告して。

(この時筆者は椅子が滑つて見事
に尻餅をつく。一同ドツと笑ふ)

高島秀男氏——どうも現在の統計と
いふ奴があてにならぬ奴で、例へ
ば千葉では統計課の調査では前年
に比し六厘増といふことになつて
ゐるが、蠶絲係の方では前年より
一割五分減といふことになつてゐ
る。ところが同じ縣當局の發表で
統計課の方と技術家の方とがまる
で、逆な發表をしてゐるので新聞
ではこの不徹底を盛んに攻撃した
といふわけだがね。僕の考へでは
技術者の統計の取り方が正しいと
思ふ。何となれば第一技術員會議
の結果がそれを證明し、第二に繭
市場の當事者もこれを認め、第三
に桑園反別が減少してをり、第四
に施肥の不足のために桑が出ない
等の理由からして、どうしても今
年は前年に比し繭の産額が少ない
と云ふことになる。

それから農林省の出した今年の夏
秋蠶掃立豫想の数字と大日本蠶糸
會の出した夏秋蠶の繭の収量とは
非常な開きがある。僕の考へでは
農林省の調査よりも大日本蠶絲會

の調査の方がいゝと思ふ。何故か
と云と農林省の調査は實質上の素
人がしたものであり、大日本蠶絲
會の調査は實質上の素人がしたも
のだからだ。より詳しくいふと農
林省の場合であつて見れば、各地
方の統計官が單に蠶蠶家の申告そ
のまゝを取纏めたものだから誠に
あやしい。地方にゐて見れば、其
邊の様子がよくわかるが、蠶蠶家
はありのまゝを申告してゐるもの
は誠に少ない。ところが大日本蠶
絲會の方は支人である地方の技術
官が四圍の状況を考慮に入れて見
積つた数字だ。だから農林省の調
査よりも大日本蠶絲會の調査によ
る数字の方が真に近いと考へる。

宮前邦雄氏——郡役所のあつた時代
には統計方面の人と技術方面の人
とが、話し合つて、間違ひの少な
い数字を出されたやうですが、郡
役所がなくなつてからはこの兩者
の計算が往々一致しないやうです
ね。

武井光雄氏——農林省では農林省の
調査による昨年の数字を基礎とし
て、夏秋蠶掃立豫想を一割二分減
と發表してゐます。また大日本蠶
絲會では蠶絲會自体の昨年の数字
を基礎として今年の夏秋蠶を二割
四分減と發表してゐます。ですか
ら、この場合或は大日本蠶絲會の
数字はそれ自体に於ては正しいか
も知れませんが、又それと同様に農
林省の数字もそれ自体としては正
しいかも知れません。それなのに
この基礎統計の違ふ兩者を比較し
て、減少歩合が多いとか少ないと
かいふことは當を得てゐないやう
ですな。

野崎 清氏——その通り。基礎統計
の違ふものを比較することは出来
ない。
(この時大日本蠶絲會の基礎数字
たる昨年の数字は農林省の昨年の
掃立實数を基礎としてゐると説明
するものがある。)

武井光雄氏——農林省の数字を基礎
とするならば尙更兩者を比較する
ことは不都合だと思ひます。何故
かと云ふと、農林省の統計は大日
本蠶絲會の調査統計と全然異なるも
のですから、眞の實数とも大きな
差があるものと思ふなければならま
せん。

高島秀男氏——何れにせよ、増減歩
合の正しいことは技術者筋の方が
確だ。

管原勇治氏——(患比齋様の様な顔
をして)要するに統計なんておか
しなものだ。
森田三郎氏——私の考では農林省の
ものもあてにならないと思ふし、
又大日本蠶絲會のものも大同小異
だと思つてゐます。私は皆で外國
人に對して、日本の統計は正確な
ものだといつたことがありますが
が、實は誠に不正確なもので、こ
の點は實に遺憾だと思つてゐま
す。米國では需給の統計は必ず一
ヶ年おくれで、同じ日に發達して
しかもちやんと收支計算をしてゐ
ます。ですから今何程の生絲が残
つてゐるかといふことはちやんと
わかつてゐます。然るに日本では
差引勘定が書いてない許りか、統
計發表の日が一定してゐませんの
で何が何やらちつともわかりませ
ん。この點、日本は大いに米國に
學ぶべきだと思ひます。

内藤良雄氏——私の調べたところ
によると、大日本蠶絲會の調査は地
方的に見れば高低の差が甚だしい
やうですが、農林省のものはさう
ではないやうに思はれますが、こ
の事實からすれば、農林省の調査
にも信頼をおいて差支ないやうに
思はれます。

野崎 清氏——聞くところによると
驚いたことに、何處かの府縣では
四十歳もあるものを二十八歳とし
て計算したものがあつたやうだね。

森田三郎氏——蠶作問題はその位に
しまして、實は非常に飛び離れた
問題ですが産兒制限の問題にして
見たいと思ひます。

原田兵衛氏——そりや若いものに聞
いた方がいゝだらう。
武井光雄氏——いや先輩に經驗談を
聞きたいものです。
森田三郎氏——コントロールの具体
的の道具については如何でせうか
な。

管原勇治氏——基督教女子青年會館
でこの問題の討議は差支ありません
な。(一同ドツと笑ふ)

伊藤勢龜氏——座長から如何。
高島秀男氏——カイより始めよ。
管原勇治氏——瞬間の忍耐にあり。
唐木田藤五郎氏——蓋し名言なり。

(この先を書きとめると風俗變亂)
森田三郎氏——それではもう時間も
大ぶおそくなりましたから、座談
會はこの邊で打ち切ることにな
ります。どうも御苦勞様でした。
□書き落したところが少なくあり
ません。尙發言された方もまだ
澤山ありましたが、筆記してゐ
るうちに、つい書き落してしま
した。尙この筆記につきましま
しは或は間違つてゐるところが
ないとも限りません。何れも筆
者の責任です。まちがつてゐた
ら御許し下さい。——確水

京都 (第二回)

U に興ふ
おいひ。
貴公が四國の山の中へ這ひ込むや
うになつてからそろそろ二ヶ年にな
る。どうしたわけだか貴公と俺とは
妙に腐れ縁がつながつてゐて閉口す
る。上田で六ヶ年、京都で三ヶ年、
よくもまあ、斯う腐れ縁も續けば續
くものだ。この調子だと腐れ縁のま
まで冥途まで一緒だかも知れぬ。本
當のことをいふと貴公と一緒に冥途
へ行くことは眞びらだ。彼の女とな
らばいゝがな。

午前五時半。
おれは今の通信を蒲團の中で、
長くなりながら書いてゐる。昨夜餘
り寒かつたから夕飯を食ふとすぐね
た。さうだな、六時頃だらう。もし
たら今朝は莫迦に早く眼がさめた。
ところが篋棒に寒くてどうしても起
き上る元氣がない。
「エ、やかましいからこのまゝ書
いて了へ」と覺悟をきめて蒲團の中
で書いてゐる。失敬な奴だと思つた
つて俺は知らぬ顔をしてゐるぞ。

さうだ。今朝のやうに寒い朝だ。
清瀬で會をやらしたとき、三里だ
か四里だかの山路を歩き通しに歩い
て來たら、朝の三時頃漸く京都へ着
いたことがあつたが、貴公はそれを
知つてゐるだらう。それで、出町の
橋へ來て俺が妙な風影をしてゐたの
でボリにつかまつたことをな。あの
時はおかしかつたな。若し貴公のや
うな制服制帽の、立派な大學生が傍
にゐなかつたとしたら、それで若し

あのとき、貴公が一生懸命おれのため

十三のおかつばの娘を描いて、その空いたところへ「閉静なお部屋

貴公は勉強家で勉強許りしてゐたが、俺はなまけもので、よく浦團をかぶつて寝てゐた。貴公はスマート

なしになるから、友人のよしみでばく

話は櫻楓館へ戻るが、がまの繪ばかり描いてゐた主人は今頃はどうか

俺が櫻楓館を去り、續いて貴公が櫻楓館を去るやうになつてから、貴

尤も貴公はキマジメで、學校を休んだことはなほいらしいが、それとは

とやらを、ミクロトムとか何とかいふむづかしいキカイでござんて

貴公はいま四國の山の中から出た心でいつぱいらしいが、それでも

今年の就職難も随分ひどかつたらしいが、來年も亦思ひやられるぞ。

おい、東京は寒くなつたぞ。そちらはどうだ。炬燵がほしいぞ炬燵

四國の山の中には炬燵があるか俺はいまどうにか苦面をして炬燵を買ひ

學校だより(十月中)

本月の運動行事は一年中一番多く勤務課発表の豫定によると十六日が運動會準備

運動會(十八日) 前日の空模様を受け曇り勝ちではあるが極めて静穏な絶好の運

を集めて居た。

Table with 4 columns: 各種得点表を示すと次の通りである。 (Various sports scores and ratios)

野外演習(自二十二日至二十五日四日間)

野外演習は飯綱原から戸隠山腹に於て實施され田中佐總指揮の初舞臺である、

第一日目母校出發長野下車全軍を紅白の二小隊に分け飯綱原の清澄な秋の野を演

第三日山中社出發山腹にかけ渡された險阻な急坂の攻撃演習を行ひ三度中社に歸

此の四日間は信州獨特の小春日和で近くは錦繡の黒姫戸隠の諸山連くは白衣一連

試験場松本出張所長、高橋重録課長が推戴されカッパは松本市普及團の寄附になつたものである、上田市からは母校から四組試験場から二組半取締所から半組七組を混成して本日長野市縣廳のコートへ出場第一回戦が行はれた。

長野對上田一〇對二六
長野對松本一〇對二六
松本對上田一九對一九

規則に依ると二組宛の決勝戦を演るわけであるが兩市協議の上カッパは長野へお預けし仲よく引きわけに決つし懇親の意を取り結んで扶れた、來春は上田が主催地に定る此日集つた同窓は依田、金崎、安川、小林、齋藤、宮澤、竹内、熊谷等の選手と長野では松村、鶴田、岸の諸氏を始め殆ど全部同窓の應援(?)並に御款待を受けていさゝか恐縮した、學校では石倉、佐藤利、清水、小澤、若林、倉澤、和田、成瀬諸氏の遠征である。

松本高等校對柔道試合(二十七日) 本日恒例の松高との對柔道試合が行はれた、成績は引分六本負四本勝一本敵に主副兩將を獲して敗退した、大變に香ばしからぬ成績であるからこゝろみに本校の主將に聞いて見ると其答へに松校は依舊業に勝れ本校は立業に勝れてゐる其所で勝負が余り長くなるから不利と知りつゝも業業に應對して術中に陥入るためだと云ふ、立業業を平均して秤量するとはるかに母校が上手だとの自稱である、川柳に「一定石はこうだと負けた方が云ひ」に終らざるは幸ひである。

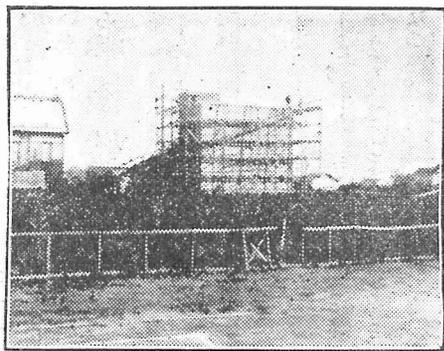
本年他校とのマッチを通覽すると野球が一回長岡に勝つたきり他は悉く美事に敗退して居る、校長は常に「正々堂々と戦へ結果は毫末も齒牙にかゝるに足らない」と訓戒されるが戦ひに不正の無い限り矢張り勝つて貰つた方が氣持がよいやうである。

飛行祭執行(十七十八兩日) 飛行場が市

營として正式に認可されたので上田市では陸軍機民間飛行士を招待して其の開場式を兩日盛大に執行した、當日來場の飛行機は二十余臺で高等飛行の妙技から夜間攻撃演習迄に見せた、殊に十八日には母校々庭運動會があり松竹と上田俱樂部の野球があり大賣出しがあり興業物の數々等が澤山あつて近郷の其道のファンを吸收し無慮十二万の出入と言はれ開市以來の雜沓を呈した。

祝賀式講演會に關しての御願ひ
前號豫告の祝賀式代議員會並に講演會は愈々今月に迫つた即ち二十二日午前には

寫眞説明 南榮園中圖書館の西端に續いて建築中の書庫、左に見ゆるは新講堂なり。



塚先生還曆祝賀式を舉行し午後代議員會二十三、四日兩日講演會を開催する、祝賀式には御家族並に母校教職員の御参列を請ひ式後簡單な書齋會を催す豫定である、會場には昨年新築なつた新講堂を畫齋會々場には武道場をあてるつもりである。今回は相當多數の會員の御來會を得ること、思ふが準備の都合等で例へ一人でも御参列の余裕を失ふやうでは實に遺憾であるから出席の各位は此際至急御報告を煩したい殊に畫齋會の會場が校内に於けるから突然の御來會者に對して無制限に準備をして置くことが出来ない故

に畫齋會の御出席は其旨御附記願ひ度い。
次に宿所に就て御希望の向には可成御便宜を御取計ひ致し度いつもりであるから遠慮なく御照會を請ふ。
各係は次の如くである。

- 一、祝賀式係
主任 林 貞三
- 二、講演會係
主任 蒲生俊興
- 三、代議員會係
主任 倉澤美徳
- 四、會場係
主任 北澤周一
- 五、記録編纂係
主任 森山二郎
- 六、講師接待係
主任 高木三治
- 七、接待係
主任 平澤勝
- 八、受附係
主任 須田圭二
- 九、筆寫係
主任 坂本孝子
- 十、庶務係
主任 田玉、六川
- 十一、會計
主任 林 貞三
- 十二、會計
主任 窪田、鷹野

紀念講演集發行 について(豫約募集)

本月二十二日行はるる針塚校長還曆祝賀式に續きて同二十三、二十四日の兩日に涉り別項の如く講演會が催される、その講演集を發行して針塚先生にも贈呈し併せて會員の希望者にも頒たんと豫定である。

就いてその代價に關しては印刷所と交渉中であるが大體二圓から二圓五十錢位に止めたいと思ふ、而して會員には書肆にて發賣する代價より幾分の割引をすることが出来るであらう、又更に豫約金一圓を前納する方には會員と會員外とを問はず更に割引すべきことを約するものである。

豫約金納入は即日受付を開始します、講演集豫約金の旨明記の上振替口座東京第四三三四一番へ御拂込下さい。

辭令

- 公立實業學校教諭 田附 一郎
七級俸(當分千五百七十圓)下賜(九月三十日福島縣)
- 群馬縣立蠶絲學校教諭 小 澄 晋
陸軍砲兵少尉正八位
- 公立實業學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セララル
地方農林技師 小 林 庸
十級俸下賜(九月三十日青森縣)
- 公立實業學校教諭 小 澄 晋
七級俸(當分千五百二十四圓)下賜(十月二十一日群馬縣)
- 正五位勳四等 川 瀨 惣次郎
敘從四位

編輯室より

本月は針塚校長還曆祝、同紀念講演會がある、又編輯子が時報を引受けてから滿一ケ年になる、更に同窓會代議員會も開かれる、多忙な月であるがまた多感な編輯子でもある。

生憎世は不況、加へて支那問題等の悩みもある巻頭に駄句つたやうに緊禪一番を要する秋である。

金輪再禁止も問題になつてゐる、他方豊橋地方の製絲工場が鶏舎に早替り、昨日は工女のデカタン式流行唄に暮れた工場も、今日は東天紅と告ぐる鶏鳴に明けぬ。

何がそうさせたか、一九三一年型モダン風景などと洒落てはならないぞ。

祝賀式出席者は至急祝賀式係へ御通報を乞ふ

住所の移動及訂正

- 居相泰一 蠶六 京都府天田郡上夜久野村字平野
- 尾藤省三 蠶十 茨城縣第一蠶業試驗場(自宅、水戸市外常盤村松本坪)
- 岩瀬三郎 蠶十三 山形縣蠶業試驗場附設桑園(山形縣農事試驗場構内)
- 神林正一 蠶十七 長野縣埴科郡五加村宮城金司方
- 村田一由 蠶十八 本校蠶絲化學教室
- 竹内直人 蠶十八 長野縣小縣郡和村
- 藤澤千蔭 蠶六 昭和六年九月廿日死亡
- 酒井淳夫 蠶十八 神戸生絲検査所(神戸市濱邊通)